

江戸絹あやつり人形



国記録作成等の措置を講すべき無形の民俗文化財
東京都指定無形文化財(芸能)

結城座は、江戸時代の寛永 12 (1635) 年に初代結城孫三郎が江戸の葺屋町（現在の日本橋人形町周辺）に旗揚げ以来、現在の十二代目結城孫三郎まで 380 年以上の歴史を持つ、日本唯一の伝統ある江戸絹あやつり人形劇団です。結城座は葺屋町に幕府公認の座として常打ち小屋を持ち活動していました。当初、説経節で興行していましたが、いち早く義太夫節に転向し、次々に新しい作品を発表してきました。その代表といえるのが、1785 年結城座に書き下ろされた「伽羅先代絵」です。この作品は、歌舞伎でも文楽でも度々上演される人気演目です。他にも、かの有名な平賀源内も「前太平記古跡鑑」「荒御靈新田神徳」等を書き下ろしています。

その後「天保の大改革」によって、市村座、中村座、河原崎座の歌舞伎三座と、手あやつりの薩摩座、そして絹あやつりの結城座、これら江戸五座が浅草猿若町に引っ越し、華やかな芝居町として賑わっていました。しかし、明治維新とともに浅草猿若町にはそれらの劇場もなくなり、薩摩座は姿を消し、歌舞伎の三座も座元の名のみ継承され、現在「座」として存続するのは結城座のみとなりました。現在では「伝統と革新、古典と新作の両輪」を活動指針に掲げ、古典公演はもとより、新作・写し絵・海外公演等、世界数十カ国に及ぶ公演を重ねています。

代表的なものとして、2002 年には日仏国際共同制作「屏風」（原作／シャン・ジュネ 脚本・演出／フレデリック・フィスバック）コリヌ国立劇場（パリ）にて 1ヶ月公演を行い、2007 年にはこの「屏風」でアヴィニヨン演劇祭オープニングを飾る招聘公演で迎えられ、古典公演「絹館、本朝廿四孝」も同時期に招聘されました。

国内では、2004 年～2017 年江戸絹あやつり人形入門塾を開塾し、次世代への継承にも取り組み、日本文化の啓発普及に努めています。

出演



結城孫三郎
八重返娘
喜多八



結城数馬
弥次郎兵衛



小貫泰明
兜千松

特別出演



田中純



新内多賀太夫
(錆き語り)

◆アフタートーク

司会 大石学（日本近世史学者 東京学芸大学名譽教授・特任教授）
2/6 結城孫三郎 2/9 新内多賀太夫、結城孫三郎、結城数馬
2/7 佐藤信、結城孫三郎 2/11 流山児祥、結城孫三郎

特別協力

東京学芸大学図書館 東京学芸大学青山研究室

助成

文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



1979年から続く老舗の喫茶店。コーヒーの深い香りと懐いのひとときをお過ごしください。
10:00 - 22:00 TEL 0422-21-8473 武蔵野市吉祥寺本町1-7-7 島田ビルB1F

8月 「星の王子さま」公演企画中！ 脚本・演出／立山ひろみ 人形美術／宇野ア喜良

2020 江戸絹あやつり人形 結城座 孫三郎 第一回古典小劇場

東海道中膝栗毛 ～赤坂並木から卯塔場まで～

本朝廿四孝 奥庭狐穴の段



2020年2月6(木)～11日(火)
会場：ザムザ阿佐谷

主催 公益財団法人 江戸絹あやつり人形 結城座

T184-0015 東京都小金井市貫井北町 3-18-2 TEL 042-322-9750 http://youkiza.jp/

憚りながらひどこと

本日は、寒さも厳しい中、「孫三郎 第一回古典小劇場」にご来場頂きまして誠に有難うございます。

60cm 前後の人形芝居をお楽しみ頂く為、お客様から手を伸ばせば人形に触れられる・・・そんな「小」な素朴な空間で古典小劇場と銘打ちやさせて頂きます。

私は、4歳の初舞台より人形遣い 70 数年を迎える年となり、次世代への継承が目の先にぶら下がっております。今回の 20 数年ぶりの復活公演「東海道中膝栗毛」では、途方もない大役「弥次郎兵衛」を若手の結城数馬がつとめ、私や先代が脇役に回るという、次世代と共に歩む第一歩となる節目の公演でもございます。

まだまだ未熟者ではございますが、多くの皆様のご支援を頂戴しながら今後とも末永く見守って頂けます様、心よりお願い申し上げます。

皆様、まずはごゆりとお楽しみ頂ければ幸いでございます。

十二代目 結城孫三郎

1943年東京生まれ。十代目結城孫三郎(故結城雪齋)の次男。

幼少より日舞を習い、4歳で初舞台。11歳から武智鉄二歌舞伎教室に入門し、歌舞伎、能は観世宗夫、狂言は茂山千之丞の教えを受ける中、人形遣いの修行も重ねる。72年三代目両川船遊(江戸写し絵家元)を襲名。93年には、十二代目結城孫三郎を襲名。以降385年に及ぶ結城座を牽引する。



孫三郎様 第一回古典小劇場公演によせ

結城座様、孫三郎様、そして関係各位の皆様、第一回古典小劇場公演、誠におめでとうございます。また、本日お越しいただきました皆々様、ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

結城座様と共に演させていただくのは初めてでございます。父の仲三郎は昔、ご一緒させていただいたことがあるそうなのですが、不調法な私はそのことを存じ上げないまま孫三郎様と初対面させていただきました。新宿の喫茶店で、先代様のことや昔のお芝居、芸人のことと大変楽しく、うれしく、沢山お話しさせていただいた中で、新内志賀大猿師と共に演されていたことを知り、大変驚くと共に心が躍りました。敬愛している大先輩、故大猿師とご一緒されていて、師がお好きだった弥次喜多を私が演奏させていただいくといふ用命を受け、身の引き締まる思いであります。ちなみに大猿師の三味線を弾いていたのが父だということをこの時に知り、父子でご縁をいただいたことに改めて感謝しております。まだまだ先輩方には及ばぬ身ではありますが、大猿師に「タケ坊、なかなか興味深かったよ」といってもらえるように、また、結城座様、孫三郎様のお力に少しでもなれますよう、精一杯舞台をつとめさせていただく所存にございます。そして、この公演が第二回、第三回・・・これからも続していくことを祈念しております。本日はご多用の中を誠に有り難うございます。

新内志賀太夫

1982年東京生まれ。6歳より父の新内仲三郎(人間国宝)に師事。2017年4月に新内節の七代目富士元派家元、新内多賀太夫を襲名。新内節の現代を支える存在であり、さらに将来を担うことが期待される。



眼・目・視

人形は語れない、話せない・・・・。だが見ることは出来る。出来るような気がする。そこに人形の宇宙があると云える。私はそのように感じることがある。何かを見ている。私はその人形が何を覗いているのかと人形の目を介して世界を見る。いや、その時間を見ようとする。それは今の彼等の今の時間だ。人形遣いの私よりも的確に一瞬の時をしっかりと捕えていると思う。その一瞬の時間が積み重なり永遠の時間を考えさせる。それは古典と云うものもある。時間との対峙でもある。古典の眼はおそろしい。長い時間、冷たい眼で舞台を、観客を、黙って見続けた古典。その眼に演者は向かい、古典よお前は何なのだ。と、現代の眼で対決しなければならない。詞章にも説明文にも答などないと思い、じっと人形と共に眼をこらし彼等を裸にしなければならない。でなければ観客の眼を舞台に向けさせることは出来まい。作家・演者・観客の眼の眼が入り混じった世界が見えるのではないだろうか。三の視考がモガラミの世界、それが舞台と云える。

田中 純

1934年東京生まれ。4歳で日本橋俱楽部にて初舞台。1947年、革命児九代目結城孫三郎葬儀の席上、結城一系を襲名。1972年十一代目結城孫三郎を襲名。1990年12月、結城座を退座し本名田中純として活動を展開し今日に至る。



一、本朝廿四孝

時代物
奥庭瓶火の段

戦国時代の武田・上杉家の争いに絡んだ両家の子女の恋などを描いた近松半二原作の人形浄瑠璃です。

許婚の武田家の勝頼に恋い焦がれる上杉家の息女 八重垣姫。

死んだと思った恋しい勝頼が生きていたことを知ります。父の謙信が追手に討たせようと謀っていることを察し、危難を救おうと諫訪明神の兜に祈ります。この兜は今は上杉家の所有となっている武田家の秘宝です。一心に祈ると白狐の靈がつき、氷張り詰めた諫訪湖を駆け抜け愛しい人へと危急を知らせます。

女心の一途さを、孫三郎の操る女形でご覧頂きます。



二、東海道中膝栗毛

世話物
~赤坂並木から卯塔場まご~

江戸期に空前の大ヒットとなった十返舎一九のベストセラー『東海道中膝栗毛』。

江戸をヒヨンなことから食い詰めた弥次郎兵衛と喜多八は、上方に向かって呑気な旅を続けています。赤坂並木(東海道五十三次の36番目の宿場「赤坂宿」/現在の愛知県豊川市赤坂町)を通りかかると、酒徳利を下げた子供が通ります。これを一つ目小僧と間違えて、ごらしめようと打ち叩いていると、その親爺が現れ「わが子に何をしゃがる」と弥次郎兵衛の首をしめ、弥次郎兵衛は気絶をしてしまいます。

親爺は身ぐるみをはぎ、そばにあった経椎子を着せて立去ります。息を吹き返した弥次郎兵衛は自分が死んだと思い、嘆き悲しむのでした。

